

財団法人萩陶芸美術館
平成24年度 事業報告書(1月1日～10月31日まで)

本年度の事業計画は下記の事項などであった。

1、展示事業

常設展示として所蔵作品の一般公開を引き続き行う。

企画展示として

第5回山口県現代工芸美術展を開催する。

それ以外の期間に、吉賀将夫の作品数点を展示し公開する。

2、萩焼き制作体験事業

3、ホームページによる企画展示及び萩焼き制作体験事業等の情報発信を行う。

4、関係資料の収集及び他館との連携事業

5、その他

この法人の目的を達成するために必要な事業として、法人改革に対応することや、その時の事態に応じた管理運営、環境整備等を行う。

各事業について述べると

1、展示作品鑑賞入館者は昨年の2185名より313名の減少の1872名であった。

常設展示は、年間を通して計画どおり行った。昨年同様、来館の鑑賞者からは好評であった。

企画展示は、財団開設の当初の目的とされたものではなかったため施設設備に難点があるが、第5回山口県現代工芸美術展は、現代工芸中国会との共催、山口県・山口県教育委員会・萩市・萩市教育委員会の後援で6月8日から9月30日まで開催した。協力関係者のおかげで盛況に行うことができ、会期中1072名の鑑賞入場者があった。

2、萩焼き制作体験事業は、館内作品鑑賞に加えて陶芸制作体験を行い、文化的教養をより深めてもらう事業であるが、希望者が多く、昨年と同様に電話、ホームページでの予約制で調整しながら行った。萩焼窯元(有)泉流山の協力で従来のように引き続き順調に行われた。

制作体験入館者は昨年の1946名より155名減少の1791名であった。

事業のPRや、やり方の工夫が必要とされる。

3、ホームページについては、企画展開催の紹介や体験事業申し込み等、広くPRを行い、利用者のため等に有益に機能している。

4、関係資料の収集及び他館との連携事業

本年も関係資料の収集については特には行わなかった。

他館との連携事業について

スタンプラリーに協力して来館者増加に努めたがあまり効果は出なかった。一方、山口県博物館協会北部地区連絡協議会で一昨年より企画された割引入場券については、昨年度は 229 名の入場者であったが、本年度は 148 名入場となり、入場者数は一昨年の倍ではあったが、昨年より大幅に減少した。

5、収益事業

ア 店舗及び作業場等を有限会社泉流山へ貸与し、賃貸料を徴収した。

イ 図録及び絵葉書の販売を行った。

6、その他

この法人の目的を達成するために必要な事業として、法人改革に対応することや、その時の事態に応じた管理運営、環境整備等を行うこととして法人改革に向けた対応では、昨年度は申請手続きを行政書士に依頼し、電子申請を行ったが、本年度は 10 月に山口県より公益財団法人として認定を受けることが出来た。

新法人として 11 月より出発することとなった。

環境整備等は日々の心がけで行った。また、7 月には風雨のため裏山に小規模な崖崩れがあったが、大事に至らず無事に処理できた。

総括

それぞれの事業を計画通り行ったが、収支決算の内訳は別紙のとおりである。陶芸体験を含めた入館者総数は 3663 名で、昨年より 4131 名より 468 名の減少であった。地道な公益事業は継続できたが、入館者増のため企画し、対外的 PR が必要とされる。

企画展示の山口県現代工芸美術展は、3 年連続となり定着した。現代工芸中国会との共催、山口県・山口県教育委員会・萩市・萩市教育委員会の後援で開催し、好評であった。

法人改革に向けた対応・対策にあたっては、山口県より公益財団法人として認定を受けることが出来、一段落となり、より活性化が求められる。

以上